

「あいち文化芸術振興計画 2027」の概要

1 計画策定の趣旨

2018年7月に策定した「あいち文化芸術振興計画 2022」が、計画期間の満了を迎えることから、これまでの取組や、社会情勢の変化、世論調査結果等を十分に踏まえ、2023年度を始期とする新たな計画を策定する。

2 計画の位置付け

- ・文化芸術基本法第7条の2第1項に規定する「地方文化芸術推進基本計画」
- ・愛知県文化芸術振興条例第6条に規定する「文化芸術の振興に関する基本的な計画」

3 計画期間

2023年度から2027年度までの5年間

4 文化芸術を取り巻く現状

(1) 社会情勢

- ・人口減少と少子高齢化の進行、人生100年時代の到来
- ・グローバル化、情報通信技術(ICT)の進展とライフスタイルや価値観、学びの多様化
- ・大規模自然災害の発生と感染症への対応
- ・SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組の推進

(2) 国の動向

- ・「文化芸術振興基本法」の改正(2017年6月、改正後「文化芸術基本法」)
- ・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の制定(2018年6月)
- ・「文化財保護法」の改正(2018年6月、2021年4月)
- ・「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」の制定(2020年4月)
- ・「博物館法」の改正(2022年4月)
- ・「文化芸術推進基本計画(第2期)」(2023~2027年度)の策定(2022年度)

(3) 本県の動向

- ・国際芸術祭の継続開催(2010年度以降5回開催)
- ・「愛知県障害者差別解消推進条例」の制定(2015年12月)
- ・愛知芸術文化センター(栄施設)の大規模改修(2016年度~2020年度)
- ・「愛知県文化芸術振興条例」の制定(2018年3月)
- ・愛知芸術文化センター(栄施設)における第2期指定管理期間開始(2019年度)
- ・「愛知県文化財保存活用大綱」の策定(2020年9月)
- ・あいち朝日遺跡ミュージアムの開館(2020年11月)
- ・県立芸術大学メディア映像専攻の開設(2022年4月)
- ・ジブリパークの開園(2022年11月)
- ・愛知万博20周年記念事業の実施(2025年3月~9月)
- ・第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の開催(2026年)
- ・リニア中央新幹線 品川・名古屋間の開業(2027年度)

(4) 愛知県を取り巻く現状

① 県政世論調査

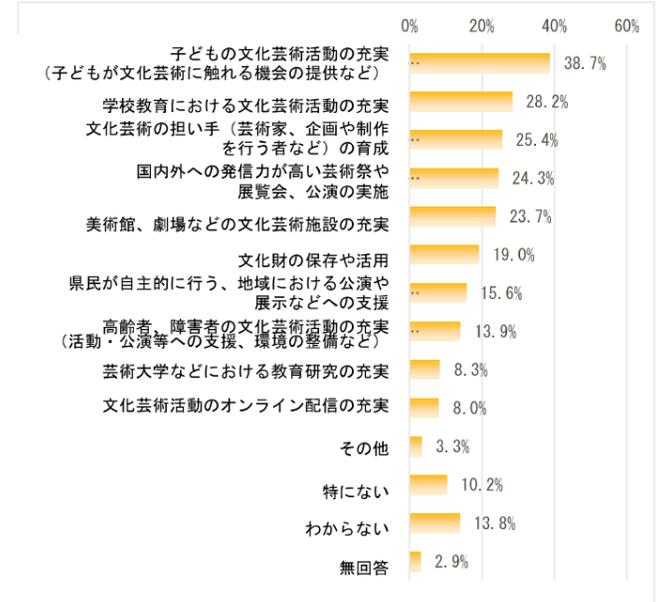
2020年11月に県内居住の18歳以上の男女3,000人を対象に実施。回答数1,636人

<結果(一部抜粋)>

- 問1 文化芸術活動継続のために県に力を入れてほしい取組は。(複数回答可)
- 1位 十分な感染防止対策を行った上で、公演やイベントの開催や支援
 - 2位 活動の場が減少したアーティスト、団体・事業者等の支援(活動の継続や新規事業の展開に向けた支援など)

問2 文化芸術振興のために県が力を入れるべきことは。(複数回答可)(右図)

- 1位 子どもの文化芸術活動の充実(子どもが文化芸術に触れる機会の提供など)
- 2位 学校教育における文化芸術活動の充実



② 文化芸術活動に関するアンケート調査

2021年11月に県内居住又は県内に活動拠点を

持つ文化芸術関係者(個人、団体・施設)を対象に実施。

回答数426件(個人234件、団体・施設191件、無回答1件)

<結果(一部抜粋)>

問1 文化芸術活動を行う上で、あると良いと思う支援策は。(複数回答可)

[個人]

- 1位 文化芸術活動についての助成金
- 2位 文化芸術活動に関する情報発信等

[団体]

- 1位 文化芸術活動についての助成金
- 2位 人材育成・後継者育成への支援

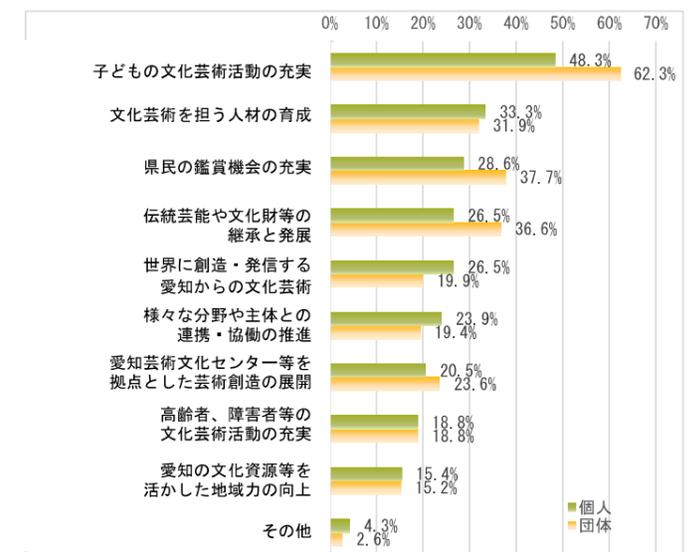
問2 今後、県が取り組むべき課題は。(複数回答可)(右図)

[個人]

- 1位 子どもの文化芸術活動の充実
- 2位 文化芸術を担う人材の育成

[団体]

- 1位 子どもの文化芸術活動の充実
- 2位 県民の鑑賞機会の充実



5 取り組むべき課題

- ・誰もが等しく文化芸術に関わることのできる社会の実現
- ・人生100年時代を見据えた文化芸術活動の推進
- ・持続可能な愛知の文化芸術の実現につながる人材の育成
- ・ライフスタイルや価値観、学びの多様化への対応
- ・ウィズコロナ、アフターコロナに適応した文化芸術の創造・発信

計画の体系

めざすべき姿

4つの基本目標

10の基本課題

42の主な施策

17の数値目標

文化芸術の力で心豊かな県民生活と活力ある愛知を実現

1 県民が等しく文化芸術に関わり、心を豊かにすることができる環境の整備

県民がその年齢や障害の有無、経済的な状況、居住する地域、国籍などにかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、参加し、創造し、心を豊かにすることができる環境を整備する。

(1) 県民の文化芸術活動や鑑賞等の機会の確保とその推進

(2) 子どもの文化芸術体験の推進

(3) 高齢者、障害者を始めとした多様な県民の文化芸術活動の推進

- ①文化芸術に関する施設の充実
- ②鑑賞等の支援
- ③新しい手法を活用した文化芸術の創造と発信
- ④文化芸術に関する情報発信
- ⑤アウトリーチ活動等による普及啓発、鑑賞機会の拡大
- ⑥所蔵作品の有効活用

- ⑦優れた文化芸術に触れる機会の提供
- ⑧学校教育への支援・協力

- ⑨高齢者の文化芸術活動の推進
- ⑩障害者の文化芸術活動の推進
- ⑪居住地によらない文化芸術活動の提供等
- ⑫多言語での文化情報の提供等

- ▶舞台芸術・芸術公演数 (2027年度調査において現状を上回る)
- ▶図書館及び博物館における事業実施件数 (2027年度調査において現状を上回る)
- ▶学校行事としての県文化施設訪問学校数と出前講座実施数(毎年度120以上)
- ▶劇場と子ども7万人プロジェクトへの参加学校数(毎年度35以上)
- ▶県文化施設におけるWebサイトで公開している所蔵作品及び作家に附している解説数(2027年度までに1,200以上)
- ▶県図書館の電子書籍へのアクセス数(毎年度現状を上回る)
- ▶県文化施設における鑑賞サポート事業実施件数(毎年度40件以上)

2 愛知の文化芸術を未来につなぐ人づくり

愛知の文化芸術を未来につなぐため、担い手やつなぎ手、支え手などの人づくりに取り組む。

(4) 文化芸術の担い手となる人材の支援、継承、育成

(5) 文化芸術と県民をつなぎ、支える人材の育成、確保

- ⑬若手芸術家の活動発表・交流の場づくり
- ⑭世界へ躍進していくための環境づくり
- ⑮県立芸術大学における人材育成及び芸術の発信
- ⑯未来を担う人材の育成
- ⑰伝統的な芸能・工芸等を担う人材の育成

- ⑱アートマネジメント等に関する専門人材の育成
- ⑲文化芸術を支える人材の育成と仕組みの構築

- ▶芸術家人口の数 (2025年調査までに24,500人以上)
- ▶県芸術劇場における舞台芸術人材養成事業への参加者数(毎年度650人以上)
- ▶県内文化施設におけるボランティアの登録者数(個人)(2027年度調査において現状を上回る)
- ▶文化芸術を対象とした寄付をしたことがある又は今後したい人の割合(2027年度までに25%以上)

3 “愛知発”の創造・発信

“愛知発”の文化芸術を創造・発信し、愛知の文化芸術のアイデンティティを確立する。

(6) 愛知から世界に向けた多様な文化芸術の発信

(7) 愛知芸術文化センター等を拠点とした芸術創造の展開

- ⑳国際芸術祭の開催
- ㉑「あいち国際女性映画祭」の開催
- ㉒国際的なパートナーシップやネットワークの構築

- ㉓愛知芸術文化センター
- ㉔県美術館
- ㉕県芸術劇場
- ㉖県文化情報センター
- ㉗県図書館
- ㉘県陶磁美術館

- ▶国際芸術祭における県外(海外含む)からの来場者の割合(2025年度に40%以上)
- ▶県文化施設への来場者数(毎年度270万人以上)
- ▶県文化施設のSNSフォロワー数(2027年度までに38,000以上)

4 愛知の文化芸術のポテンシャルを活かした地域力の向上

愛知の文化芸術のポテンシャルを最大限に活かし、様々な分野と連携・協働することで、地域力の向上を図る。

(8) 愛知の文化資源等を活かした地域力の向上

(9) 伝統芸能や文化財等の維持、継承等

(10) 様々な分野や主体との連携・協働の推進

- ㉙モノづくり文化を活かした地域力の向上
- ㉚アニメーション等を活かした地域力の向上
- ㉛生活文化の振興
- ㉜地域の文化資源の情報発信
- ㉝文化資源等を活かした活動への支援
- ㉞市町村における地域力の向上への支援

- ㉟伝統芸能等の維持、継承、発展
- ㊱文化財等の保存と活用

- ㊲様々な分野との連携
- ㊳市町村との連携
- ㊴文化芸術団体等との連携
- ㊵民間事業者等との連携
- ㊶芸術系大学等との連携
- ㊷文化施設間の連携

- ▶愛知に誇ることのできる文化資源があると考える人の割合(2027年度までに60%以上)
- ▶伝統文化の鑑賞や体験を継続して行いたいと考える人の割合(毎年度60%以上)
- ▶他の機関と共催事業を行った県内文化施設の数(2027年度調査において現状を上回る)

推進体制

- 以下の推進体制により、総合的かつ効果的に文化芸術振興施策を推進する。
- ▶愛知芸術文化センターを始めとする県文化施設や関係機関との役割の分担
 - ▶市町村を始め様々な主体との連携の推進
 - ▶県庁内における横断的な連携体制の構築

進行管理

- ▶進捗管理指標と数値目標を設定
- ▶毎年度、事業成果の評価・検証を行い、その結果を公表することで、PDCAサイクルによる進捗管理を実施
- ※評価・検証には、学識経験者等による第三者評価(外部評価)を活用

施設の概要

愛知芸術文化センター

愛知芸術文化センターは、栄施設の県美術館、県芸術劇場、県文化情報センター、名城施設の県図書館の4つの部門で構成され、それぞれの部門が創意と工夫を凝らした事業を実施しています。また、複合施設である特性を活かし、本県芸術文化の振興拠点として、相互に連携を図った芸術文化活動を展開しています。

◆栄施設

(名古屋市東区東桜一丁目13番2号〔1992年10月開館〕)

県美術館

コレクション展や企画展を通じて、過去の美術の歴史的な展開とともに、今日の新しい美術の動きも積極的に紹介しています。また、さまざまなジャンルの作品制作に取り組む地域の団体等の方々の発表の場として、ギャラリー展示室を提供しています。

- ▶施設：展示室8室、ギャラリー展示室10室
- ▶所蔵作品：約8,700件

県芸術劇場

本格的なオペラ上演が可能な機能を備えた大ホール、優れた音響効果を備えたコンサートホール、実験的・創造的舞台芸術に対応できる小ホールの3つの専用ホールと2つのリハーサル室で構成されています。

- ▶施設：大ホール、コンサートホール、小ホール、リハーサル室

県文化情報センター

芸術文化全般における普及や活動の支援の場として設けられ、アートプラザ、アートライブラリー、アートスペースで構成されています。

◆名城施設

(名古屋市中区三の丸一丁目9番3号〔1991年4月開館〕)

県図書館

愛知芸術文化センターの一翼を担う図書館として、「県民に開かれた図書館」、「資料情報センターとしての図書館」、「県内の市町村立図書館へのバックアップを行う図書館」の役割を果たし、国際化、情報化に対応する図書館を目指します。

- ▶蔵書数：約131万冊



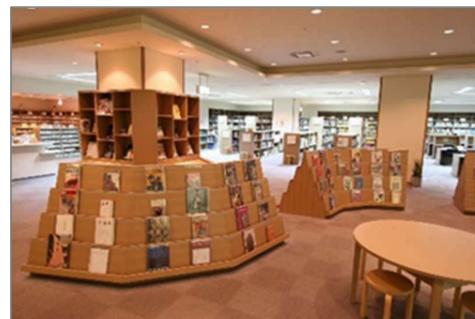
愛知芸術文化センター（栄施設）



県美術館



県芸術劇場 大ホール



県文化情報センター アートライブラリー



愛知芸術文化センター（名城施設） 県図書館

愛知県陶磁美術館

(瀬戸市南山口町234番地〔1978年6月開館〕)

日本を代表する窯業地・瀬戸に「愛知県陶磁資料館」として開館し、2013年に現在の名称に変更しました。

美術的・歴史的・産業的に貴重な陶磁資料を収集・保存・展示するとともに、作陶体験施設「陶芸館」、古窯跡を公開する「古窯館」などを設置し、陶磁文化に触れる機会を提供する、やきものの専門ミュージアムです。

- ▶施設：本館、南館、陶芸館、古窯館
- ▶所蔵資料：約8,300件



愛知県陶磁美術館

あいち朝日遺跡ミュージアム

(清須市朝日貝塚1番地〔2020年11月開館〕)

東海地方を代表する弥生時代の遺跡「朝日遺跡」の発掘調査によってもたらされた出土資料の収蔵・保管や、朝日遺跡と弥生時代の調査研究、展示教育普及等の事業を実施し、歴史文化に関心を寄せる場を提供する、遺跡ミュージアムです。

- ▶施設：本館、史跡貝殻山貝塚交流館



あいち朝日遺跡ミュージアム

愛知県埋蔵文化財調査センター

(弥富市前ヶ須町野方802-24〔1987年12月設置〕)

発掘調査による出土品を適切に収蔵・活用するとともに、埋蔵文化財の調査研究、資料の収集、普及啓発などを行い、県民の埋蔵文化財に関する理解を深めます。また、市町村の埋蔵文化財保護事業の支援を行っています。

- ▶一般利用可能施設：図書室、資料管理閲覧室、収蔵庫C



愛知県埋蔵文化財調査センター

愛知県立芸術大学

(長久手市岩作三ヶ峯1-114〔1966年4月開学〕)

個性的で魅力ある大学として、また、愛知が生んだ芸術文化の拠点として、国際的に開かれた芸術文化の核となることを目指し、大学の理念として、「芸術文化にたずさわる優れた人材の育成」、「国際的な芸術文化の創造・発信拠点」、「地域社会と連携して本県の芸術文化の発展に貢献」を掲げています。

- ▶美術学部：美術科(日本画、油画、彫刻、芸術学)
デザイン・工芸科(デザイン、陶磁、メディア映像)
- ▶音楽学部：音楽科(作曲、声楽、器楽)
- ▶大学院：美術研究科、音楽研究科
- ▶定員数：学部780人、大学院164人(2022年5月1日時点)



愛知県立芸術大学 講義棟